

まだまだ馴染みの浅い『**ブラウ**』トラクタ作業機ですが…
実際使用すると絶大な恩恵が期待できます!!



『そもそも何のために**ブラウ耕**を行うのか???

田畑の排水性向上

圃場の排水性を妨げる原因でもある土壌の『**不透水層(ネリネリ層)**』をすくいあげ破碎する。

(※**ロータリ耕**では**不可能**)

また粗く掘り起こされた土塊の土本体の自然乾燥も促す。



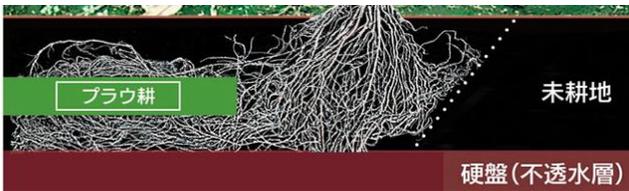
作業スピード・効率アップ

通常**ロータリ耕**うんの**3~4倍**のスピード粗耕うんが可能

ブラウ耕時のスピード
6~7km(小型・中型トラクタ)
一般ロータリによる粗耕うん
約1.5km



根域を広げる



ロータリ耕うんでは届かない深さを掘り返すことで、作物の養分吸収の根元でもある根っこの広がる範囲を拡大でき、作物の倒伏も抑制できる。

ジャンボタニシの増殖抑制



秋・冬にブラウによる粗耕うんを行うことで土塊が大きく、地中に空気(冷気)を取り込みやすくなるため、**ジャンボタニシの越冬を防ぐ**ことが期待できる

土壌改良効果



ブラウによる深耕により有機物が土と混和されることで微生物を活性化させ**腐植が促進**されます。

ロータリのナタ爪の摩耗を大幅に軽減

トラクタロータリ爪
摩耗品



粗耕うん時にブラウ耕を行うことで(秋・冬耕)春耕以降に使用する**トラクタロータリの爪の摩耗を大幅に軽減**できます

ブラウ耕の注意点

不透水層(ネリネリ層)のさらに下の**硬盤層**まで完全に破碎してしまうと、水が地中に抜けすぎってしまう弊害が起こる場合もあります。

→対処方法

- いきなり深くスキ込まずに少し浅めにして様子を見る
(最初は約**10cm**くらいの深さに)
- 田植機のタイヤが沈む恐れのある圃場においては、圃場に対してまっすぐではなく**斜めにブラウを走らせる**
- 代かき作業を丁寧に行う



ブラウ作業は圃場に水気があると作業が困難となります。十分よく乾いた時期(秋・春耕うん)を見計らって行うようにしてください。水田では秋耕うん(10~11月)のよく乾燥したタイミングがオススメ。